

## 会議録

会議テーマ	令和7年度 第1回阿南市総合教育会議		
開催年月日	令和7年7月29日(火)	資料の有無	有
会場	阿南市役所6階 603・604会議室		
出席者	<p>【構成員】</p> <p>岩佐市長、坂本教育長、林教育長職務代理者、里美教育委員、岡本教育委員</p> <p>【事務局】</p> <p>幸泉企画部長、七條企画政策課長（司会）、北岡企画政策課主査、西田主事</p> <p>【関係課】</p> <p>安富教育部長、西岡教育総務課長、小笹教育総務課課長補佐、磯部学校教育課長、田上生涯学習課長、清原人権教育課長、篠原スポーツ振興課長、吉村学校給食課長、岡部青少年健全育成センター所長、松本那賀川図書館長、堀科学センター館長、市瀬教育研究所副所長</p>		
傍聴者	2人		
内 容			
13:30 開会			
<p>【七條企画政策課長】</p> <p>ただ今から令和7年度第1回阿南市総合教育会議を始めさせていただきます。本日はご多忙の中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。昨年度、本会議は、阿南市教育大綱の協議を含め、8月と3月の2回開催いたしました。今年度の本会議は本日1回の開催としております。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日は、新居委員さんが欠席でございます。初めに資料の確認をお願いします。お手元に会議次第、資料1、資料2、資料3の合計4枚となっております。不備、不足はございませんか。</p> <p>なお、本会議は阿南市総合教育会議設置要綱第6条の規定により、公開することとしております。また同要綱第7条の規定による会議録を作成するため、会議の発言内容を録音させていただきますのであらかじめご承知おきください。</p> <p>また、後日、会議録を市ホームページに掲載させていただきますので、ご了承のほどよろしくお願い申し上げます。はじめに市長からご挨拶を申し上げます。</p>			

【岩佐市長】

本日はご多忙の中、令和7年度第1回阿南市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、教育委員の皆様方におかれましては、日頃より阿南市の未来を担う子どもたちの、教育の充実と発展に大変なご尽力をいただいておりますことに深く敬意を表しますとともに、市政各般にわたりまして、ご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、この総合教育会議は、教育委員の皆様方と、教育現場での課題や子どもたちを取り巻く現状などを共有し、それぞれの役割などについて闊達な議論を交わすことにより、意思の疎通を図る重要な場であると考えているところでございます。

今回は、「理工系人材育成の取組について」と「SNSに係る情報モラル教育について」を協議事項とさせていただきますので、皆様の忌憚のないご意見を賜りたいと存じます。

今後におきましても、総合教育会議を通じてより一層、教育委員の皆様方と連携を深め、主役は子どもたちであるということを常に念頭におきながら、教育の向上に努めて参りたいと考えておりますので、よろしく願い申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

【七條企画政策課長】

ありがとうございます。では、続きまして、協議事項に移ります。阿南市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、岩佐市長に議長をお願いいたします。

【岩佐市長】

それでは、会議に入ります。協議事項1「理工系人材育成の取組について」、学校教育課及び科学センターから説明をお願いします。

【磯部学校教育課長】

学校教育課の磯部です。着座のまま説明します。

資料1をご覧ください。「理工系人材の育成の取組について」です。これまでの取組ですが、市内学校における科学センターでの理科学習、また、阿南高等専門学校や地元企業による出前授業など、他の自治体にはない学習環境の強みを生かした理工系人材の育成に取り組んでまいりました。本市が目指す新たな都市像「輝く個性を育む 自然と調和した産業都市 阿南」の創生を受け、これまでの取組と共に、学校教育における早い段階から、地域の発展に貢献する理工系人材の育成に取り組む必要があります。

今年度の取組として、以下の2点を柱として、取り組んでいます。

取組の1点目は、大阪・関西万博チケットの購入費補助です。万博が、児童生徒に理学や工学へ興味・関心を持ってもらう契機づくりの絶好の機会と捉え、先端技術などの世界の英知や新たなアイデアに触れることで、学校での教育活動だけではできない理学や工学に興味・関心を持ってもら

う機会の創出につなげています。現在、既に必要な手続を終えた家庭からの申請なども上がってきており、また、問い合わせなども受け付けているところです。夏休みに入り、今後、本格的に申請などが上がってくると考えています。

2点目は、理工系人材育成に係る教育プログラムの構築です。市内の小中学校からモデル校を指定し、理工系人材育成に係る取組に対する支援を行います。モデル校に教育プログラムの実証事業を行ってもらい、その成果を学校間で横展開することで、理工系人材育成の推進につなげることを目的としています。現在、小学校、中学校から実施計画書が上がってきており、各学校の実態に応じて、地元企業への訪問見学、あるいは出前授業、理科の実験設備などの充実といった計画が提出されているところです。

そうした取組を通して、これまでの取組や他の自治体にはない学習環境の強みを生かしつつ、持続可能な本市の未来社会を牽引する次世代の理工系人材の育成に取り組んでまいります。

#### 【堀科学センター館長】

科学センターの堀です。よろしく申し上げます。着座のまま説明します。

資料2をご覧ください。「理工系人材育成の取組について」、科学センターですが、現在取り組んでいる事業のほとんどが、この理工系人材の育成につながるのではないかとということで、現状取り組んでいるものについてご説明します。

まずは、科学センター理科学習です。先ほど学校教育課の取組の中でもありましたが、科学センターは開館以来「科学センター理科学習」と称し、現在、市内29校（小学校21校、中学校8校）の児童生徒をバスで送迎し、充実した視聴覚機器や実験・観察器具が揃った当センターで効果的な学習を実施しています。学校の長期休業期間を除き、年間の平日は約200日ありますが、そのうち約100日はこの科学センター理科学習を行っています。

以下は一般向けの取組ですが、「おもしろ科学実験」という取組も行っており、こちらは小中学生とその保護者向けに、年間約100日、土曜日、日曜日と夏休みなどの長期休業期間を使い実験を行っています。これは、一般市民を対象に科学の原理原則を指導員が分かりやすく演示実験を行うものです。

次に「わくわく科学工作」です。これはもう少し対象年齢を下げ、幼児から小学校低学年を中心に簡単な科学工作教室を実施しており、年間約15日実施しています。

そして「デジタルプラネタリウム」は、年間約100日実施しており、広く一般市民を対象に、土曜日、日曜日、祝日、学校長期休業中の昼間に、その時期に見える星について解説を行っています。

また「夜間の天体観望会」ですが、これを年間約30日実施しており、毎週土曜日の夜間に一般の方を中心として、科学センターにある四国一の天体望遠鏡を使い、実際の星を観察してもらうものです。

下の2点は少し専門性が高くなります。「阿南市少年少女発明クラブ」は、年間10回から12回活動しています。このクラブは、市内に通学している小中学生40人を対象に、電気工作など高度

な工作を中心に活動しているクラブです。現在、夏休み中ですが、夏休み中には地元企業の工場見学なども行います。今年は8月7日に日亜化学工業本社の工場見学をする予定です。そうした、より高度な理工系人材育成をこのクラブを通じて行っています。

最後に、科学講演会の実施です。年間数回実施していますが、宇宙や自然に関する有識者を科学センターに招き、講演会を実施しています。令和7年度も、先日7月21日に野鳥の講演会を行い、その講演会も含めて今年は3回の講演会を予定しており、その一つがバッテリーバレー構想に基づいた「宇宙開発とバッテリー」というテーマで、JAXAの職員を招いてバッテリーと関連した講演会を行っていただく予定です。

簡単ですが、科学センターからの説明は以上です。

#### 【岩佐市長】

学校教育課、科学センター、それぞれから説明がありましたが、これらを踏まえた上で、委員の皆様からご質問、ご意見、ご提言などがあればお聞かせいただきたいと思います。林委員からお願いします。

#### 【林委員】

ありがとうございました。まず資料1について、2点の取組の説明があったかと思いますが、特にモデル校指定について、具体的に小学校、中学校の学校名を教えていただくことは可能でしょうか。

#### 【磯部学校教育課長】

お答えします。提出された実施計画書を現在審査中ですので、まだ決定していません。小学校、中学校で偏りがないようには考えていますが、内容を精査した上で決定したいと考えています。

#### 【林委員】

分かりました。議会でも質問が出ていたかと思いますが、大変良い取組として聞かせていただきました。

直接は関係ありませんが、5月30日の新聞に、阿南高専に入学する女子生徒、特に科学や建設分野が人気で、ここ5年間で進路として選択する割合が非常に高くなっているという、いわゆる「理系」と言いますか、そうした話題性のあるニュースが出ていました。高専のこうした分野の人気が出ている点は、中学校の進路指導や、保護者の方の意識が高まってきている現れかと思います。

中学校におきましても、生徒の希望を尊重して進路指導を行っていることと思いますが、今後の動向についてお尋ねします。

今後、県全域で高校の学区が全県一区になる可能性や、文部科学省による高校の在り方の抜本的な改革も報じられております。そうなった場合、高専の人気はさらに高まるものと考えられる一方、

阿南市の社会科学系の人気が大きく落ち込む可能性も、中学校の先生から伺っております。つきましては、最近の中学校における進学や高等教育に向けての要望・希望の変化について、もし何かお聞きでしたら、改めて教えていただけたらと思われました。

【岩佐市長】

では、岡本委員、お願いします。

【岡本委員】

まず、地元企業による出前授業は、大変素晴らしい取組だと思われました。学校の先生方自身は、地元にもどのような企業があるかなかなかご存じない中で、大変良い機会だと思えます。

私自身も青年会議所の活動で高校へ行き、生徒さんと座談会をする機会をいただいたのですが、その際、土木建築系、いわゆる建設分野に進みたいという2人の生徒と話しました。1人は女性、もう1人が男性でしたが、そうした生徒たちも、今はどうしても男性の多い業種というイメージがある中で、企業側が女性の活躍にも期待していることや、将来そうした道に進みたいという意見を聞き、その仕事の魅力をお伝えしました。

やはり、男女を問わず幅広い視野でいろいろな仕事があることを伝えていく中で、生徒たちには地元企業に残ってもらいたいと思えます。先ほど先生がおっしゃっていましたが、高専・高校生の就職状況は、105人中85人、約81%が県内就職で、約2割が県外に就職されるそうです。少しでも地元企業を知り、地元就職してもらえる機会を、小さい時からいろいろと設けていただけたらなと思えます。

また、万博のチケットの取組と合わせて何かできないかと考えたのですが、例えば「地元企業万博」のように、地域にはこんなに素晴らしい企業や技術がある、といったことを小学生に伝える機会を設けるのはどうでしょうか。そうしたことを通じて、子どもたちが地元や地元企業を好きになり、関心を持ってくれるきっかけになるのではないかと思われました。

【岩佐市長】

里美委員もお願いします。

【里美委員】

いただきました資料を拝見し、ご説明も丁寧で分かりやすかったのですが、私なりに2点、提起したいことがございます。

まず第1に、阿南市には資料にもありますように科学センターがあり、県外からの高名で素晴らしい講演者の方々が皆、「こういう科学センターがあるのは特別なことですよ。素晴らしいんです」とおっしゃってくださいます。地元の方は、私自身も含めて、あまりその価値に気が付いていないのではないかと感じます。それと共に、世界的な地元企業もございます。こうした他の自治体には

ない、サイエンスの学習環境の強みを、果たして現在は十分に生かしきれているだろうか、というのが一つ目の点です。今回の万博チケットの購入費補助は、大変良い取組だと思います。

もう1点は、「地域の発展に貢献する理工系人材育成に取り組む必要がある」という点についてです。これは行政、つまり大人の視点から見れば、阿南市の環境を考えますと、こうした発想になるのは当然のことかと思えます。ただ、これを子どもたちにそのまま伝えた時に、子どもたちはどのように感じるでしょうか。やはり科学というのは、まずは「ワクワクする」ような、未来への希望にあふれたものであり、教育においてはそうした動機付けが不可欠ではないかと思うのです。ですので、この目的設定については少し捉え直すのが良いのではないかと感じます。その「ワクワク」から始まった学習が、結果として将来「地元企業で働きたい」と思う子どもたちを育むことにつながれば、それが理想的だと思います。

加えて、今の社会状況を考えますと、「理工系人材」という言葉そのものについて、どうなのだろうかと感じています。おそらく私だけでなく皆さんも、理系・文系という分類の仕方自体が、もはや時代にそぐわないという感覚をお持ちではないでしょうか。理系と文系の知が融合した社会に変容しつつあるのは、皆さんも感じておられることだと思います。例えば、国語の教員であっても、生徒の作文がどこまで生成AIを用いているのかを見極め、感知する能力は必要でしょう。これを理系の能力、文系の能力と分けきれないところに、今の社会は進んでいると思います。AIを禁止するのではなく、その知識も持ちつつ、AIとは違う人間の創造的な活動とは何か、人間とは、社会とはどうあるべきか、というところまで踏まえた教育ができれば良いのではないかと考えています。

手塚治虫様の『火の鳥』などを読まれた方は多いと思いますが、まさに現代社会の在り方を予見していると感じます。作中ではロボットと人間の関係が非常に深いところまで描かれており、それが哲学的考察にまで及んでいます。このように、もう少し議論を深めていただき、単に「理系の人材を育成して地元企業へ」というだけでなく、新しい知見に基づいた「サイエンスそのものの面白さ」を子どもたちに伝え、広めていくような、そんな阿南市独自の理系教育を、例えば新しい図書館にコーナーを設けるなど工夫していただければ、子どもたちにとってより良いものになるのではないかと思います。

#### 【坂本教育長】

失礼します。皆様のご意見を伺い、色々と思うところはありますが、まず私自身の経験からお話しします。

私は小中学校で理科の教員として勤めてまいりましたが、理科が非常に好きでした。これは、教えてくれた先生が好きだったということもありますが、やはり実験で実際に体験できる楽しみや、新しい発見をするときの驚きが根本にあったからだと思います。今も小学生に聞きますと、「実験は面白い」という反応が確かに返ってきます。

ただ、これが「職業」という観点につながるかという点で見ますと、先ほど委員がおっしゃった「ワクワクが継続していない」というご指摘の通りだと感じます。せっかくの素地があり、それぞ

れが色々な取組をしてくださっているのですが、それらが系統的につながり、一貫した学びとして蓄積されていく仕組みが、まだ十分ではないのかもしれないと感じています。

これから理工系人材の育成を目指す上で、やはり、より戦略的に阿南市の持つ利点を生かすべきです。「阿南にはこんなに素晴らしい企業や技術がある」ということを、小さい頃から繰り返し伝え、深く知ってもらう。そうした取組が、郷土への愛着を育み、「ここで働いてみたい」というキャリア教育にもつながっていくのではないかと感じています。

万博に関連した取組として、来る9月18日には、吉井小学校の児童が万博の会場で若杉山の辰砂の展示に関するプレゼンテーションを行う計画も進んでいます。これは、英語を交えて来場者の方々に阿南の素晴らしさを伝えるという画期的な試みです。

このように、様々な側面から阿南の良さを発信することが、将来の阿南の発展につながっていけばと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### 【岩佐市長】

それぞれにありがとうございます。まだ少々時間はありますので、例えば今の各委員からの発言を受けて、何かそこから思いついたことなどあればと思いますが、いかがでしょうか。

#### 【林委員】

堀さんから科学センターの取組についてお話がありましたが、私の先輩もあそこで働いていますし、そこで学んだことを現場に還元している姿も見ております。他の市町村から阿南に赴任された同僚からも、この取組によって指導方法を学ぶことができた、非常に前向きな感想を伺っております。

ただ、これを「専科教育」という視点で考えますと、一つ課題が見えてまいります。ご存じの通り、小学校の教員は圧倒的に女性が多いのが現状です。これは、女性が理系が苦手ということでは決してなく、年度当初にどの教科を指導するか決める中で、特に準備の負担が大きい理科については、専門の先生にお願いしたいという希望が多く出る、という実情があるのです。

理由としましては、実験の準備に大変な時間がかかることが挙げられます。例えば2時間の実験を行うにも、その日の朝から準備をしないと間に合わないケースもあります。また、授業の前に保護者対応などが入ると、授業の進行が遅れてしまうという現実もあります。こうした背景から、英語のように、理科も専門の先生が担当することを望む声が多くなるのです。免許上は全教科を教えるのが小学校教員ですが、現場の実感としては、そうした希望が出てくるのが実情です。

こうした状況を踏まえますと、今後、小学校教育の中で科学への興味をさらに育ていくためには、やはり理科を専門とする教員が指導できるようなシステム作りが必要ではないでしょうか。教員の数に限りがあることは承知の上ですが、そうした体制を整えていく必要があると考えます。難しい課題とは存じますが、可能であれば、理科の授業準備の時間も確保できるような、効果的な教員配置についてもご検討いただけると大変ありがたく存じます。

【岩佐市長】

ありがとうございます。他は何かありますか。

【岡本委員】

「阿南市少年少女発明クラブ」についてですが、確かに私が小学生の頃にもあったことを思い出しました。当時は、クラブ活動といえば他はスポーツ系が多かったように思います。

小学校の段階で正式な選択科目を設けるのは難しいかもしれませんが、「この子はこの分野に特に興味があるな」ということは、先生や周りの友人にも分かるものではないでしょうか。

そうしたこどもたちのために、例えば夏休みなどを利用して、関心のある子がさらに科学を深く学べるような特別な機会があれば、その子の将来の選択肢も大きく広がるのではないかと感じました。

小学生のうちに、自分の興味が将来につながると気付けるのは、大変貴重な経験です。ですので、特に強い関心を持つ子に向けて、そうした学びの場をさらに提供できれば良いのではないかと、改めて感じた次第です。

【里美委員】

細かいことになりますが、まず発明クラブの名称についてです。「阿南市少年少女発明クラブ」とありますが、これは少しレトロで趣があるとも言えますが、現代のこどもたちに合わせて、もう少し工夫をしても良いかもしれません。

例えば、これを女子中学生が見たときに、すぐに「参加したい」と興味を持ってくれるだろうか、と思うのです。「少し古いな」と感じたり、「サイエンスの世界は男性が中心なのかな」と無意識に感じさせたりする名称では、大変もったいないと感じます。何十年も続く伝統ある名称だと思いますが、特に女子生徒の視点に立って、一度見直してみたいはいかがでしょうか。

また、最近、高専で女子の志望者が増えているというお話は、本当に素晴らしいことだと思います。私は日頃、英語塾で小中学生に接する機会が多いのですが、今のこどもたちには「男子は理系、女子は文系」といった固定観念は、もはや全くないと感じています。女子生徒で科学に強い興味を持つ子もいれば、男子生徒で社会学系を強く志望する子もおり、興味の対象は本当に多様です。

むしろ、こどもたちの興味を方向づけるのは、性別よりも環境要因の方が大きいのではないのでしょうか。例えば、ご両親が医療関係であったり、地元の企業に勤めておられたり、そうした家庭環境の中で、幼い頃から理系分野に触れる機会があれば、女子生徒でも自然にそちらへ興味を持つ傾向があるように感じます。

ですから、私たち大人がすべきなのは、テストで点を取るための理科教育だけでなく、「科学はこんなに面白いんだ」「将来、こんな形で社会に貢献できるんだ」ということを伝えられるような、豊かな環境作りではないかと思います。

【坂本教育長】

理系・文系という点では、性別による差は確かになくなっている、その通りだと思います。しかし、社会全体を見渡せば、「理系というと男性」「お医者さんは男性」といった、無意識のイメージがまだ隠れている面はございます。もちろん、中学校の進路指導において性別で進路を方向づけることは一切ありませんが、社会にそうした側面が残っているのは、やはり気になるところです。

少し話は変わりますが、「阿南市少年少女発明クラブ」の活動は大変素晴らしいと感じています。先ほど堀さんからもお話があったように、この8月にも工場の見学に行かれるそうですね。こうした素晴らしい活動を、もっと広く市全体へ周知し、その成果を地域に還元していくことが重要ではないでしょうか。

例えば、ケーブルテレビなどを活用して積極的にアピールすることで、さらに多くの子どもたちの興味を引くことができるはずです。今は特に関心の高い一部の子どもたちが参加してくれているのだと思いますが、この輪をもう少し広げていくことで、郷土への愛着といった良い影響も生まれてくるのではないかと感じました。

また、林委員からご提案のあった理科の専科教員についてですが、ご指摘の通り、音楽、理科、体育は、現場の先生方から専科を望む声が高くなる傾向があり、準備に大変な時間がかかります。1時間の実験のために、その前に1～2時間の準備が必要となることもあり、どうしても敬遠されがちになる。そうなると、教員自身が理科の面白さを実感できず、その楽しさを子どもたちに伝えることも難しくなってしまいます。

元は市長も理科にご専門でいらっしゃいますので、実験の面白さや発見の喜びは、よくご存知のことと存じます。私たち教育委員会としましても、教員の皆さんが理科の本来の楽しさをしっかり捉え、自信を持って指導に臨めるよう、今後さらに支援を強化していきたいと考えております。

【岩佐市長】

皆様、それぞれにご発言いただきありがとうございました。時間も半分ほど過ぎましたので、ここで前半を総括し、私からも少しコメントをさせていただきます。

まず、委員の皆様からのご意見がありましたが、万博のチケット補助は良い取組だと評価していただいております。万博の会期も残り半分となり、夏休みにも入りましたので、より多くの子どもたちに見ていただけるよう、周知に努めていく必要があると考えています。また、ご指摘のあった「阿南市少年少女発明クラブ」の名称につきましては、科学センターにおいて、子どもたちがより興味を持てるような名称を検討いただければと思います。

今回、「理工系人材」というテーマを掲げた私の思いについても、少しお話しさせていただきます。里美委員がおっしゃったように、理系・文系と分けるべきではないというご意見は、私も十分に理解しております。特に今の時代、固定観念は取り払う必要があります。

ですから、今回のテーマは「理工系」の知識や実験だけを指すものではありません。広く、子どもたちの探求心や考察力、そして論理的な思考力を育むことは、理系・文系の区別なく、教育の根

幹であると考えています。実験などは、その探求心を育むための一つの有効な手段です。また、現代では文章の読解力がなければ理系の問題も解けないように、両者は密接に関係しています。

しっかりそこは両面で、文章の読解力、考察力、探求心を養っていき、教育全体のレベルを上げていく必要があるのかなと思っています。その中で、理工系人材の育成ということになるのですが、少し私としての思いも共有させていただきたいと思います。

その理由ですが、この総合教育会議は、地域の事情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るために、重点的に講ずべきことについて協議をする場であると定められています。地域ならではの教育内容や方法を実践することが重要であると考える中で、ここで言う「地域の事情」とは何か。それは、阿南市の「強み」と「課題」であると、私は考えています。

まず阿南市の「強み」は、豊かな産業です。昭和 30 年代後半から本市の発展を支えてきた製造業が、その中核を成しています。旧神崎製紙である王子製紙、四国電力、新日本電工、J-POWER、そして地元で発展した日亜化学工業など、多くの企業が立地する産業都市であることが、本市の大きな特色であり、強みです。

もう一点の「強み」は、教育環境です。先ほどお話にもありましたように、高専が立地し、県立高校も 3 校あります。そして、県内の自治体で唯一、科学センターが存在します。これも大変大きな強みです。ただ、里美委員のご指摘通り、この強みを十分に生かしきれているかという点は、真摯に受け止めるべき課題です。だからこそ、科学センターの取組をさらに強化し、この優位性を確かなものにしていく必要があります。そのために、地域産業の担い手となる理工系人材の育成が、本市にとって重要であると考えています。

次に、阿南市の「課題」ですが、これは人口減少問題です。皆様もご存じの通り、本市の人口は予想を上回るペースで減少しており、危機的な状況にあります。その最大の要因が、20 歳から 24 歳までの若年女性の転出超過です。具体的には、この世代の女性の転出超過数は年間 105 人に上り、同年代の男性の 2.5 倍に達しています。この状況は、統計上、年間約 193 人の出生機会を失っている計算になります。20 年前には約 650 人であった出生数が、昨年は約 350 人となっており、これがどれほど深刻な状況か、皆様にもお分かりいただけるかと存じます。このままでは、本市の存続そのものが危ぶまれる事態です。この社会減、とりわけ若者の流出を、何としても食い止めなければなりません

その対策として、若者が安心して働ける環境整備が急務です。例えば、本市の基幹産業である製造業は、三交代制の勤務形態も多く、子育て世代の女性が働きにくい面も一部あるかもしれません。今年度、組織改革で新設した「新産業推進室」でも、官民協同で、女性が安心してこどもを産み、子育てをしながら、この阿南の豊かな産業を支え、働き続けることができる環境づくりを進めています。

安心してこどもを産み、子育てをしつつ、阿南のこの豊かな産業を支え働くことができるような、この阿南を作っていきたいという思いもありまして、この「強み」である産業をさらに伸ばし、それをもって「課題」である人口減少を克服する。その鍵となるのが「理工系人材育成」であるとい

うのが、私の考えです。

また、高校生へのアンケートでは、地元の企業を「知らない」という声が多く、情報提供が不足している状況も浮き彫りになっています。雇用条件やジェンダー格差の改善を進めると同時に、キャリア教育や工場見学などを通じて、進学などで一度県外へ出たとしても、「卒業したら阿南へ帰ってきたい」と思えるような、故郷への愛着や誇り、いわゆるシビックプライドを育む必要があります。その観点からも、地元企業との連携を強化し、情報提供の機会を増やしていくことが重要です。

こうした取組について、今後さらに改善を重ねていきたいと考えております。この地の実情に即した教育の振興として、理工系人材の育成が重要であるという、私の考えをお伝えさせていただきました。

それでは次に、協議事項2の「SNSに係る情報モラル教育について」に移りたいと思います。学校教育課から説明をお願いします。

#### 【磯部学校教育課長】

学校教育課の磯部です。着座のまま説明します。

「SNSに係る情報モラル教育について」、学校教育課からご説明します。資料3をお願いします。

最近の課題として、インターネットやスマートフォンの普及により、SNS上のインターネットに係る児童生徒のトラブルが急増しています。中でも、生徒指導に係る問題につきましては、その大半が何らかの形でSNSなどのインターネットでのトラブルを含んでいます。例えば、ネット依存による不登校や昼夜逆転の生活に陥ったこども、LINE上でのネットいじめ、それからオンラインゲームなどでの課金の問題など、情報化社会の加速度的な発展に伴い、トラブルの内容も拡大している状況です。従いまして、これまで以上に情報モラル教育の重要性が高まってきている現状にあります。

本市の取組としては、令和3年度から、1人1台タブレットを小学校1年生から中学校3年生まで全てのこどもたちに配布しています。それに絡め、情報モラル教育の必要性から、令和4年度に、活用型情報モラル教材である「GIGA ワークブックあなん」を全ての端末に導入しています。これは、紙媒体の副読本のような冊子ではなく、活用型のモラル教材アプリです。こどもたちが実際に操作をして情報モラル教育を行ったり、持ち帰りの際、保護者向けの資料もあり、ご家庭で情報モラルについて親子で考えていただくような資料も入っている、そういった活用型の教材です。現在も、使い勝手の良さや、より効果的な内容にしていくなど、改良を加えながら活用を行っているところです。

それから、教員の情報モラル教育の指導力向上を図る研究授業や研修会の実施、また、外部講師の招聘による情報教育に係るより専門的な出前授業や、保護者向けの講演会なども実施しています。ネットトラブルに係る相談窓口の周知や、フィルタリング機能の設定について保護者に啓発を行ったり、関係機関との連携による情報共有や校長会などの機会を通じた情報モラル教育の実施の

周知徹底などを行ったりしてきていますが、SNSに係るネットトラブルは日々変化していますので、最新動向の情報収集に努めるとともに、先進事例などに学びながら関係機関との連携をさらに密にし、児童生徒の発達段階に応じた、児童生徒が自ら考え判断し行動することができる情報モラル教育の、さらなる質の向上を図ってまいりたいと考えているところです。

説明は以上です。

#### 【岩佐市長】

ただいま学校教育課から説明がありましたが、委員の皆様から、ご質問、ご意見、ご提言を賜りたいと思います。林委員からお願いします。

#### 【林委員】

「GIGA ワークブックあなん」について、現職を離れて10年になりますので、現場の方に伺ってみました。市のホームページから全て閲覧でき、印刷すると160ページにもなる大変充実した内容で、基本的な操作から今日的な課題、保護者への啓発まで網羅されており、驚きました。もし指導で分からないことがあれば、LINE みらい財団がオンラインで研修もしてくれると聞き、これは素晴らしいと感じました。

先日、別件である小学校にお邪魔した際、情報モラルの保護者研修について伺いました。校長先生が元学校教育課長でいらっしゃるのですが、保護者に学校へ来ていただく研修が難しい中、徳島県産業振興機構の地域DX推進部に依頼し、6月27日の授業参観後に講演してもらったそうです。そこでのお話は、「学校の指導だけでは限界がある。被害にあう背景には、家庭での話し合いが不足していることがある」という内容で、保護者の方々も「一から学び直さなければ。それが子どもと共にできたらいいな」と感じておられた、とのことでした。

このように、LINE みらい財団から講師を呼べない場合でも、県内には無償で出前授業をしてくださる方が74名も登録されており、うち14名は阿南市在住だそうです。ただ、この講師リストが発表されるのが3月末とのことで、年度末・年度始めの異動などで校長先生が変わると、この情報を十分に生かせないという課題も伺いました。こうした有益な情報を、確実に学校現場に届けられるシステムがあれば、さらに良いのではないかと感じました。私自身も、委員として共に学ばなければ、高齢者も標的になる時代ですから、危機感を持った次第です。

一つは別件ですが、教師自身が加害者となる痛ましい事件が全国で発生しました。コンプライアンス研修は行われていると思いますが、使う側の倫理意識や、組織のチェック機能が確立されていないと、発覚した時には取り返しのつかない事態に発展します。この点の取組が一つの課題です。

もう一つ、長くなりますが、先日、四国の人権教育研究大会で司会をした際、松山市や小松島市では、市町村単位でインターネットの人権侵害を監視する専門部署を設置しているという発表がありました。これは教育委員会だけでなく、市全体の危機管理に関わる問題ですが、阿南市にはそうしたチェック機能はあるのでしょうか。もし分かれば教えていただきたいと思います。

【磯部学校教育課長】

十分なお答えにならないかもしれませんが、お答えします。

先ほどありました教員のトラブルのことも、非常に深刻な事態です。コンプライアンスの意識向上も図っていきませんが、風通しの良い職場づくりと言われる中で、教員間の何らかのストレスを抱えた状態でこういうトラブルが起こっていますので、そういうことも背景に含めながら、さらに教員間のコミュニケーションを深めていく中で、お互いの気付きや、チェック体制を確立していけたらと考えています。特に校長会を通じて、この意識向上は常に周知しているところですが、教員のトラブルにつきましても、さらに意識を高めて、こういうことが阿南市で起こらないように取り組んでいけたらと考えています。

続いて人権侵害の部分につきましては、これは教育委員会だけの問題ではなく、人権担当の部署など、市役所全体で上げていかなければいけない問題ですので、今後、横展開、あるいは市長部局とも相談させていただきながら、確実なチェック機能のシステム構築につきましても取り組んでいきたいと考えています。

以上のようなお答えですが、答弁とさせていただきます。

【岩佐市長】

はい。岡本委員、お願いします。

【岡本委員】

この SNS の問題は、本当に難しいというのが率直な意見です。資料にも、課題、取組、そして今後の方向性が書かれていますが、結論が「情報モラル教育の質の向上を図る」ということであり、具体的な解決策を見出すのは、やはり困難なのだと感じます。親がこどもの状況に気付いていないケースも、相当数あるのではないのでしょうか。

何でも SNS で済ませてしまう時代の中で、実体験から「生きる知恵」を学ぶ機会が失われているようにも感じます。教育においても、多少の危険があるからと、「危ないからやめなさい」とすべてを止めてしまうのではなく、時には、小さな失敗や怪我から気付くこと、やってみて感じること、そうした体験を通して学ばせるという視点も必要なのではないかと感じます。

【岩佐市長】

では、里美委員、お願いします。

【里美委員】

この問題は本当に難しいなと思います。特に私のような、こういうことに疎い世代の者ですと、本当に分からないことだらけです。従来の教育の観点からすると、多分、失敗してみても学ぶこともある、ということが言えたかと思うのですが、この SNS の領域に関しましては、もしかするとそれ

が思いがけない危険なこと、あるいは自らが犯罪を犯してしまうということに繋がってしまう、そういう怖さがあると思います。

それと同じ子どもであっても、世代間の格差がもう既にあるのではないかなと思います。生まれた時からこういったものに接している子と、かろうじて親御さんから「文字の方が大事よ」と言われて育った世代の子では、多分、意識の格差はあるだろうなど。

従来の教育では「失敗から学ぶ」ことも肯定されましたが、SNSの領域では、一つの失敗が取り返しのつかない危険や、意図せぬ犯罪に繋がる怖さがあります。

また、同じ子どもたちの間でも、生まれた時からデジタル機器に接している世代と、そうでない世代とでは、既に意識の格差があるように感じます。難しい問題だと言っている、具体的な方策は必要です。ご説明にも「トラブルは日々変化している」とありましたが、専門家できえ追うのが大変な、目まぐるしい分野だと思います。ですから、年に一度の講習で十分ということはなく、講師自身も常に知識を更新し続ける必要があります。

子どもたちだけでなく、保護者や教員も、定期的に専門家の話を聞く機会が不可欠です。そして、先ほど林委員がおっしゃった「監視する専門スタッフ」、これを既に配置している自治体があるのであれば、本市でも早急に専門部署の設置を検討すべきではないでしょうか。深刻な事態が起きてからでは遅い領域だと思います。

#### 【岩佐市長】

モニタリングは今年から市民部の方で始まっております。ネット上の不適切な書き込みなどへの監視が始まっています。先ほど課長も申しましたように、庁内での横展開や、監視状況等についても見ていきたいなと思います。

#### 【坂本教育長】

本当に悩ましい問題ですが、SNSはもはや避けて通れないものであり、「使用禁止」という方向には向かうべきではないと考えています。学校現場では、林委員がおっしゃったように外部の専門家を招くなど、様々な工夫をしています。ただ、講師によって専門分野やアプローチが異なり、学校が本当に必要としている情報と合致しない場合もありますので、研修などを通じて、より学校の実情に合った方に来ていただく努力を続けているところです。

このSNS等は、分別のある大人できえ詐欺に遭うのが現状です。純粋な子どもであれば、悪意のある罠に掛かってしまう危険性はさらに高いでしょう。そうしたことがないように、「GIGAワークブックあなん」の活用や、最近では「デジタル・シティズンシップ教育」といった、より幅広い視点での取組も進めています。

実は先日、教員研修の準備で、ChatGPTに「こういうテーマで話したいが、どういう構成が良いか」と尋ねたところ、1分もかからずに、現状の課題から明るい展望まで、筋の通った構成案が出てきました。自分が何日もかけて考えるようなことが、です。プレゼンのシナリオまで作成すると

いうのですから、これを使いこなしていく時代なのだと、感動というより、何とも言えない感覚を覚えました。こどもたちは、こういう社会の中で育っているということを、我々大人がしっかり認識した上で、物事を考えなければならないと感じた次第です。

【岩佐市長】

ありがとうございます。まだ時間はありますが、何か言い残したこととか、またこれを受けて何かあれば。

【林委員】

先日、埼玉県警が「サイバーテスト」という教材を全国で初めて開発したというニュースを見ました。また、徳島県産業振興機構の出前授業では、民間の銀行なども協力しているそうですが、県も連携し、いじめの問題があれば警察の担当者も一緒に協議をする体制ができたと聞いています。

ある気象学者が「温暖化対策は『全員で考えましょう』ではもう手ぬるい。食料危機が訪れるという危機感を持つべきだ」と話していましたが、情報モラルの問題も同様ではないでしょうか。学校の先生が授業をすることも、大切ですが警察の方が来て、この「サイバーテスト」のような教材を使い、「保護者も一緒に聞いてください」という形で実施すれば、非常に効果が高いと、ニュースでは報じられていました。

もし可能であれば、教育委員会だけでなく、阿南市という行政として、警察と連携した取組を導入することも検討すべきではないでしょうか。知っていても、それを「犯罪」と認識できないこどもや保護者もいると思います。毅然とした対応として、少し衝撃的な提案かもしれませんが、警察の協力が得られるのであれば、そうした対策も練るべきだと感じました。

【岩佐市長】

ありがとうございます。何かございますか。里美委員お願いします。

【里美委員】

警察の方にお話しいただく機会は、こどもたちにとってキャリア教育の一環にもなるかもしれませんね。それがきっかけで警察の仕事に興味を持つ子もいるでしょう。

もう一つ問題提起ですが、情報モラル教育を進めると同時に、SNS以上に面白いと思えるような「実体験」を充実させることが必要ではないでしょうか。先ほどの理科の実験、読書の楽しさ、あるいはキャンプといった課外活動など、勉強だけでなく、こどもたちが夢中になれる充実した時間を、阿南ならではのやり方で提供すること。それが、結果としてこどもたちをSNSのリスクから遠ざけ、より「ワクワク感」のある教育につながるのではないかと思います。

【岩佐市長】

ありがとうございます。最後の里美委員からのご提言、SNS 以上に面白い体験学習というのは、非常に重要な視点です。理科だけでなく、図書に親しむ機会なども含め、様々な形で検討してまいります。

また、岡本委員、里美委員からもありましたが、SNS や情報に関しては、本当に「失敗が許されない」側面があります。小さな失敗なら修復できても、一度ネット上に発信されると、世界中に拡散してしまう。その恐ろしさを、私達は深く理解する必要があります。

ただ、皆様がおっしゃるように、これからは情報を「うまく使う」ことが不可欠です。そのための手法も同時に教えていかなければなりません。しかし、変化のスピードが非常に速い分野ですので、常に最新の情報を得ながら、迅速かつ適切な対応が求められます。この点については、引き続き教育委員の皆様からも情報提供をいただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

それでは、まだご意見もあろうかと思いますが、協議事項2につきましては、以上で閉じさせていただきます。

次に、協議事項3の「その他」についてです。委員の皆さんから何かその他でございましたでしょうか。

【林委員】

ここで協議すべきことか分かりませんが、小規模特認校についてです。先日、読者投稿欄に「教育委員会が本気を出す時ではないか」という、読者の欄への投稿がありました。私も同感なのですが、国の制度では、通学は「保護者の送迎」が原則となっています。もし、市として通学の補助ができないのであれば、そのことを明確に周知しないと、それがマイナスイメージとして捉えられてしまう可能性があります。

老婆心ながら、賛同者の中には「このままでは廃校になるのではないかと、強い憤りを感じている方もいるようです。地域の反響も大きい問題ですので、ここで議論すべきかは別として、応援メッセージとして受け止めるだけで良いのか、あるいは何らかの説明をすべきなのか。その点について、また別の機会にでもご意見を伺えればと思いました。

【岩佐市長】

ご提言ありがとうございます。この場での回答は控えさせていただきますが、ご意見としては、確かに拝聴いたしました。教育委員会の方で、今後の対応を検討します。他に何かございませんか。

【岡本委員】

市外の保護者の方から伺った意見ですが、阿南市独自の「ゆったりスタート」について、「あれは大変良い取組だ」と評価されていました。夏休み明けなどに、一斉登校ではなく、時間短縮といった工夫が他にはない、と。また、その話を聞いたある先生は、「学校単位ではなく、自分のクラスで

はこうしている」とおっしゃっていたそうです。一つの意見としてお伝えします。

【里美委員】

学校も視察させていただくと、やはり毎回のように老朽化の問題が出てきます。ちょうどそういう時期なのだと思います。建築から40年、50年が経ったということで、少子化の方も思ったよりも加速度がついてきているということであれば、ここは思い切って再編をされた方が、小出しに修理を繰り返すよりも良いかもしれません。子どもたちに付きまとう問題ですし、保護者からも「もっと早くに大きいところに行けばよかった」という意見もあるみたいですので、ここはいつそ思い切って再編を組み直される機会かもしれません。その方が教育的、経済的効果が大きいかもしれません。

【坂本教育長】

岡本委員からお話のありました「ゆったりスタート期間」ですが、今年も9月1日（月）から5日（金）にかけて実施します。残暑が厳しい時期であり、また、子どもたちの自殺が増える時期でもあることから、子どもたちが心身ともに余裕をもって学校生活に順応できるよう、そして教員が子どもたちと向き合う時間を確保できるよう、昨年度から導入したものです。他の自治体からも問い合わせが来ており、こうした働き方改革も含め、子どもたちのための時間を確保する取組を、今後も進めてまいります。

【岩佐市長】

それぞれにありがとうございました。時間も参りましたので、協議事項3はこれで終わりとさせていただきます。本日いただいたご意見を踏まえ、市長部局と教育委員会が連携し、教育の実現に向けて努力してまいりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。  
それでは、協議事項が終わりましたので、事務局に進行を戻します。

【七條企画政策課長】

ありがとうございます。それでは、閉会にあたりまして市長からご挨拶をお願いします。

【岩佐市長】

皆様、本日、長時間にわたりご審議いただき、ありがとうございました。本日、「理工系人材育成の取組について」と「SNSに関わる情報モラル教育について」の2点をご協議いただきました。委員の皆様からいただきましたご意見やご提言は、市と教育委員会の共通認識として、今後の教育行政の推進にしっかりと生かしてまいりたいと考えております。

また、本年3月に策定した新しい総合計画や第4期阿南市教育振興基本計画では、子どもたちが意見を表明する場の構築を重要施策に掲げています。その一環として、今月8月20日の水曜日に

「阿南市こども議会」を開催します。市内中学校9校から各校2名ずつに議員として参加してもらい、阿南市政への疑問や意見を議会形式で発表していただきます。中学生ならではの斬新な視点やアイデアを、可能な限り市政に反映してまいりたいと考えております。皆様へのご案内は、この後、事務局よりお渡しします。

今後におきましても、様々な課題が出てくるかと思いますが、市長部局と教育委員会が強い連携のもと、教育環境の整備や子育て支援の取組を実施してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。本日はどうもありがとうございました。

#### 【七條企画政策課長】

委員の皆様も、大変貴重なご意見ありがとうございました。いただいたご意見は、今後の阿南市の教育政策の推進に生かしてまいりたいと考えています。

先ほど市長からもありましたこども議会ですが、今回、坂本教育長、教育総務課長、学校教育課長、それと学校現場の先生、生徒さんのご理解とご協力をいただきまして、来月8月20日（水）に開催することになっています。平成30年以来7年ぶりの開催で、阿南市では通算6回目の開催となります。1回目は平成4年度に中学生を対象としたこども議会を開催しているのですが、その後、合併10周年などの節目に開催していて、それは全て小学生が議員さんとなっていました。今回は、「こども基本法」の趣旨も踏まえ、こどもたちの意見を反映するということもありまして、中学生に各学校2名ずつ出いただくこととなっています。案内は送らせていただきますので、委員の皆様もご参加いただけたらありがたいと思っています。

今後も、こどもたちの意見をしっかりと聞く場を設け、その意見を可能な限り市政に反映できるよう努めてまいりますので、引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

15：05 閉会